

研究課題：「髄芽腫に対する Survivin inhibitor の細胞分化促進剤の併用効果ならびに病理検体を用いたアポトーシス関連蛋白発現の検討」

1. 研究の目的

がん細胞では一般的にアポトーシス経路が障害されており、カスパーゼ蛋白群の発現低下やアポトーシス抑制蛋白群の発現亢進がみられます。髄芽腫でも、予後不良群でアポトーシス抑制蛋白群の Survivin の高発現がみられると報告があり、Survivin の阻害剤を使った研究報告もみられます。

また、髄芽腫を組織学的にみると、予後の良い組織型では神経細胞への分化傾向がみられるという特徴があります。そこで、本研究では、Survivin の阻害剤に細胞分化作用が期待される薬剤を併用すれば、より効果が高いのか、培養細胞株を用いて調べます。併せて、実際の髄芽腫症例において、予後や組織型とアポトーシスの程度に関連があるか、過去の病理組織検体を用いて調べます。将来的な髄芽腫治療の発展に寄与する研究です。

2. 研究の方法

2000年1月1日～2020年12月31日の期間に、当院、病理組織診断検査にて髄芽腫と診断された患者様を対象とします。

病理検査のために過去に作成された組織切片を用いて免疫染色などを行い、カスパーゼ蛋白群や Survivin がどの程度発現しているかを調べます。また、診療録から、性別、発症時の年齢と腫瘍の広がり、手術ならびに化学療法の内容、生死や再発の転帰について調べます。

3. 研究期間

倫理委員会で承認された日 ～ 2025年3月31日

4. 研究に用いる資料・情報の種類

病理診断科で保管しているパラフィン包埋切片、診療録。

5. 外部への資料・情報の提供、研究成果の公表

この研究で得られたデータを外部へ提供することはありません。この研究で得られた結果は、医学雑誌などに公表されることがありますが、患者様の名前など個人情報は一切分からないようにしますので、プライバシーは守られます。

6. 研究組織

研究機関：地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立小児医療センター

研究責任者：臨床研究部 部長 中澤 温子

研究分担者：病理診断科 応援医師 渡辺 紀子

脳神経外科 科長 栗原 淳

血液・腫瘍科 医長 福岡 講平

7. お問い合わせ先・研究への参加を希望しない場合の連絡先

研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、資料・情報が当該研究に用いられることについて患者様もしくは患者様の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、2024年3月31日までに下記の連絡先へお申出ください。その場合でも患者様に不利益が生じることはありません。

地方独立行政法人埼玉県立病院機構
埼玉県立小児医療センター
医事担当（代表 048-601-2200）